

## 課題調査における調査結果の分析及び施策への反映

(令和6年3月現在)

※ 課題調査とは、単年度調査として実施した次の調査項目をいいます。

- ・ 静岡県の魅力に対する意識(総合政策課) Q21
- ・ 自動運転に関する意識(建設政策課) Q22～25

## ■ 静岡県の魅力に対する意識

調査目的	<p>国が「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を「デジタル田園都市国家構想総合戦略」に改訂したことにもない、県の「美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生総合戦略」を令和5年度中に改訂する。</p> <p>改訂時の戦略体系の組み替えにより、戦略の「目指すべき方向性」の新規設定が必要となることから、本調査結果を「魅力ある地域づくり」を推進していくための数値目標として活用することで、本県の魅力の向上に向けた戦略を進めていく。</p>
調査結果の分析、意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 静岡県に「魅力を感じている」人の割合は84.5%となった。</li> <li>・ 静岡県のどのようなところに魅力を感じているかについては、「気候が温暖である」が86.2%と最も高く、次いで「自然環境が豊かである」(68.5%)「富士山が見える」(68.0%)が選択されており、本県の自然環境や世界文化遺産富士山が高い評価を受けていることが窺える。</li> <li>・ 一方で、産業や医療・福祉、教育、子育て環境に係る項目については、いずれも10%前後と低いことから、関係部局と連携してこれらの魅力を周知していくとともに、次期計画策定時には関連施策を積極的に盛り込み、推進していく必要がある。</li> </ul>
今後の施策への反映の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次期総合戦略については、県の総合計画である「静岡県の新ビジョン 後期アクションプラン」に、国が総合戦略に記載を求めるデジタル関連施策などが既に盛り込まれていることから、総合計画に統合することとした。</li> <li>・ 次期総合計画(令和7年度開始)の策定を進めていく際に、参考資料として活用していく。</li> </ul>
現時点で活用、反映したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合計画に統合することとしたため、現時点での具体的な活用・反映はないが、次期総合計画策定時に参考資料として活用する。</li> </ul>
担当課	知事直轄組織 政策推進局 総合政策課

■ 自動運転に関する意識

調査目的	令和6年度までに社会実装を目指すしずおか自動運転 Show CASE プロジェクトに対して、県民の自動運転への認知度を把握するとともに、社会実装に対する意識向上を目指し、自動運転のロードマップ策定に反映する。
調査結果の分析、意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自動運転車に関心がある人の割合は、「関心がある」が62.8%、「関心がない」が30.1%と、関心を持つ県民が半数を超えていた。</li> <li>・ 自動運転車に乗ったことがある人の割合は、「乗ったことがある」が6.4%、「乗ったことがない」が93.2%で、自動運転を体験したことのある人は1割を満たしていなかった。</li> <li>・ 県が実施している自動運転実証実験を知っている人の割合は、「知っている」が22.8%、「知らない」が76.7%で、まだまだ認知されていないことが確認できた。</li> <li>・ 住んでいる地区で自動運転車が走ったら乗ってみたいと思う人の割合は、「乗ってみたいと思う」が47.4%、「乗ってみたいとは思わない」が28.7%で、県内で実装させる意義があるように捉えることができた。</li> </ul>
今後の施策への反映の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自動運転の実装に向けたロードマップの策定の際に検討資料として活用する。</li> <li>・ 県民への更なる周知を図るため、来年度の実証実験を検討するに当たって、今まで実施していなかった地域での実験を検討する。</li> </ul>
現時点で活用、反映したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度の実証実験に対する有識者会議にて、調査結果を報告する資料を追加した。</li> </ul>
担当課	交通基盤部 政策管理局 建設政策課